

北中 進路通信

茨木市立北中学校

2019年9月17日発行

私の体験談

先週から学校インターンシップとして大阪教育大学の学生がきています。数学の授業でお世話になっていますよね。今回の進路通信は、その学生からみんなに受験に向けてのアドバイスを書いてもらいました。

人生の道が変わる大きな岐路に立っている3年生、周りもみんな初めての経験です。そんな中で何より**大事なことは自覚を持つこと**だと思います。「自分は受験生なんだ。受験までの残りの期間の過ごし方によって人生が変わってしまうんだ。」という自覚です。遊びたい、楽な生き方をしたいという風に思ってしまうと本来の自分の目標より下がってしまうかもしれません。僕の周りの人もそんな考えを持っていた人は受験で大成功という風になっていません。実は僕もそんな人でした。高校受験ではあまり努力をせず、自分に甘えた結果、第一志望の公立高校は落ちてしまい、私立高校に進学しました。今になってあの時の自分は何であんな生活をしていたんだろうととても思います。皆さんには良い受験学年、良い結果で高校に進学してほしいです。僕は今、個別指導塾で講師として働いています。昨年に皆さんと同じ高校受験をする中学3年生を担当していました。その子は受験学年である自分のことをとても自覚していて、「勉強せなあかん。この1年間は頑張らなあかん1年間なんや。」と何度も言っていました。北中学校の3年生も自覚をもって受験を乗り越えてほしいです。

まだ志望校で悩んでいる人、高校生活が不安な人、様々いると思いますが高校は楽しいです。これははっきり言えます。僕も高校での思い出が山ほどあるし、今でも連絡を取って遊ぶ友達も何人もいます。**自分が受験で成功しているイメージを持って受験までの時間を過ごしてほしいです。**

誰しも人生で頑張らないといけない時期はあります。僕も今、数学の先生になるために頑張っています。皆さんも僕も今は頑張らないといけない時期ということです。お互いの良い結果を僕は望んでいます。**受験学年が終わった後に「あの時もっとしていれば…」という後悔がないように残りの期間を過ごしてください。**



受験生としての自覚を持つ!!

まだ学校では 5 教科に関しては中学で学ぶ範囲を終わっていない教科ばかりだと思います。中学で学ぶ全範囲を学び終わるのは早くても 12 月ぐらいで、たいてい 1 月になります。そこから 1,2 年生の復習をしていたら遅いのは分かっていると思います。なので、今の時期は 1,2 年生の復習にも手を付けていることが大事です。学校で学ぶ新しい内容、1,2 年生の復習どちらも並行してやるのが理想です。



A 問題は学校のワーク、教科書の問題を完璧にしましょう。ケアレスミスには日頃から厳しく注意することが高い点数に直結します。
 B,C 問題についてはやはり応用力が求められます。様々な単元の組み合わせの問題や少し文章が長くなる証明問題など入試までの解いてきた問題量がカギになってきます。1 度目は解けなかった問題も 2 回目、3 回目と解いていき、正答率にこだわっていくのが大切だと思います。
 最も大事なものは 1 度目の正答率ではなく類似問題などの 2 度目の正答率だと僕は思います!!

	理想(北中生はこっち!!)	僕の受験生時代
9 月	学校の授業と 1,2 年生の復習を並行して行う。関連性を考えながら理解を深め基礎知識をどんどん固めていこう。家庭学習では分からないところをなくすのを優先!!	塾ばかりに頼ってしまい家庭学習の時間を考えていませんでした。1,2 年生の復習はある程度していましたが、塾だけで勉強した気になっていました。
10 月		
11 月		
12 月	1 度過去問を解いてみます。そうしたら自分が理解している範囲とそうでない範囲が分かると思います。その結果をふまえて受験までの残り少ない時間を逆算して勉強計画を立てて見るのが良いと思います。	塾で週何回か授業があり、学校も行っているので 11 月までと変わらない生活を送っていました。ここで気持ち切り替われたらと今でも後悔しています・
1 月	年が明けると気分も一転して受験までのラストパート!!という風に気合が入ればいいですね。時間は限られているので勉強をするときとしないときのメリハリがとても大事です。1 時間ダラダラするより 30 分を最高に集中しよう。	とにかく過去問ばかりしていました。できなかった範囲は自分の持っているテキストでの復習など演習中心に過ごしていました。
2 月	過去問にしているはずなのでその解き直しは必須です。5 教科にまんべんなく時間を使い自信をもって入試に挑みましょう!!	受験日の直前になっても生活習慣は変えなかったです。急に変わっても良いことはないと思います。
3 月		